【事例紹介】

外務省の帰国留学生フォローアップ活動

Follow-up of International Students who studied in Japan
by Ministry of Foreign Affairs

外務省大臣官房人物交流室　上利　司
AGARI Tsukasa
(Exchange Programs Division, Minister's Secretariat, Ministry of Foreign Affairs)

キーワード：帰国留学生、フォローアップ、外務省、ASCOJA、アスジャ

１．はじめに

文化交流は、人の交流に始まり人の交流に終わる、とも言われます。外務省では、各国・地域政府関係者、有識者、文化人等との交流、留学生交流や青年交流、スポーツ交流などの分野において、さまざまな取組を行っており、国境や文化の垣根を越えた人と人との触れ合いを促進しています。

その中でも、留学生交流は、日本と諸外国との友好親善や対日理解の促進、日本の高等教育機関の国際化、地域・企業の活性化、開発途上国の将来を背負う人材の育成といった重要な側面をもっています。このような観点から、外務省では、諸外国との留学生交流を促進しています。

外務省の留学生交流施策は大きく分けて、①日本留学の魅力を発信する積極的な広報・情報提供（入口）と②帰国後のフォローアップの充実（出口）がありますが、本稿では、②帰国後のフォローアップの充実に焦点を絞って紹介します。

２．帰国留学生のフォローアップ充実の重要性及び方法

日本での留学を終えて母国に帰国した留学生（以下、「帰国留学生」）は、政治・経済・学術等様々な分野で母国と日本の架け橋として対日理解・友好関係の促進に貢献することが期待されており、日本にとって貴重な資産であると言えます。この観点から帰国留学生に対する支援を充実させることが重要であり、外務省は世界各国に有する大使館や総領事館、領事事務所といった在外公館のネットワークを活用し、（１）帰国留学生の把握、及び（２）帰国留学生会（元留学生の同窓会）の組織化と活動支援を行っています。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

（１）帰国留学生の把握

外務省では留学を終了した国費留学生の連絡先等の情報を、留学生の個々人の同意が得られる場合、日本学生支援機構（JASSO）から文部科学省を通じて、毎年春と秋の２回入手し、その情報を在外公館に通報しています。また、実際に帰国留学生に在外公館の担当からコンタクトを取るよう指示し、その結果を報告させ、帰国留学生の近況を把握すると共に、在外公館とのつながりの形成・きめ細やかなフォローに役立てています。

例えば、アフリカ西部の島国サントメ・プリンシペには日本の在外公館がなく、在ガボン日本国大使館が兼轄しているのですが、在ガボン大使館員がサントメ・プリンシペに出張する度に教育省に勤める帰国留学生と面談を行っています。帰国留学生からは「サントメ・プリンシペには在留する日本人がいないため、日本語を使う機会はほとんどない。大使館員が訪問する機会は日本語を使用することができるので、日本語を忘れないためにも今後も来訪の際には連絡いただきたい。」と評価されています。このような帰国留学生は日本の国費留学制度を高く評価してくれています。同制度を国の発展に役立てるためにも、在外公館がないサントメ・プリンシペにおける国費留学生試験実施において、帰国留学生は教育省との調整、広報、会場確保、試験監督、面接試験官、応募者へのアドバイス等、様々な作業に協力してくれており、在外公館の活動に多大な貢献をしてくれています。

（２）帰国留学生会の組織化と活動支援

①帰国留学生会の組織化

上記のサントメ・プリンシペの帰国留学生のように、「せっかく日本で勉強しても自分の国に帰ってしまうと日本との関係を維持するのは難しい」、「せっかく勉強した日本語を使う機会がないので忘れてしまう」などと感じている帰国留学生もいるようです。そこで、外務省は、帰国留学生がお互いの連携を強め、人脈を形成し、母国社会での留学生（元留学生）の地位向上を図ることなどを目的に、帰国留学生会と呼ばれる同窓会組織の設立や、既に組織が存在する場合には入会を帰国留学生に呼びかけています。

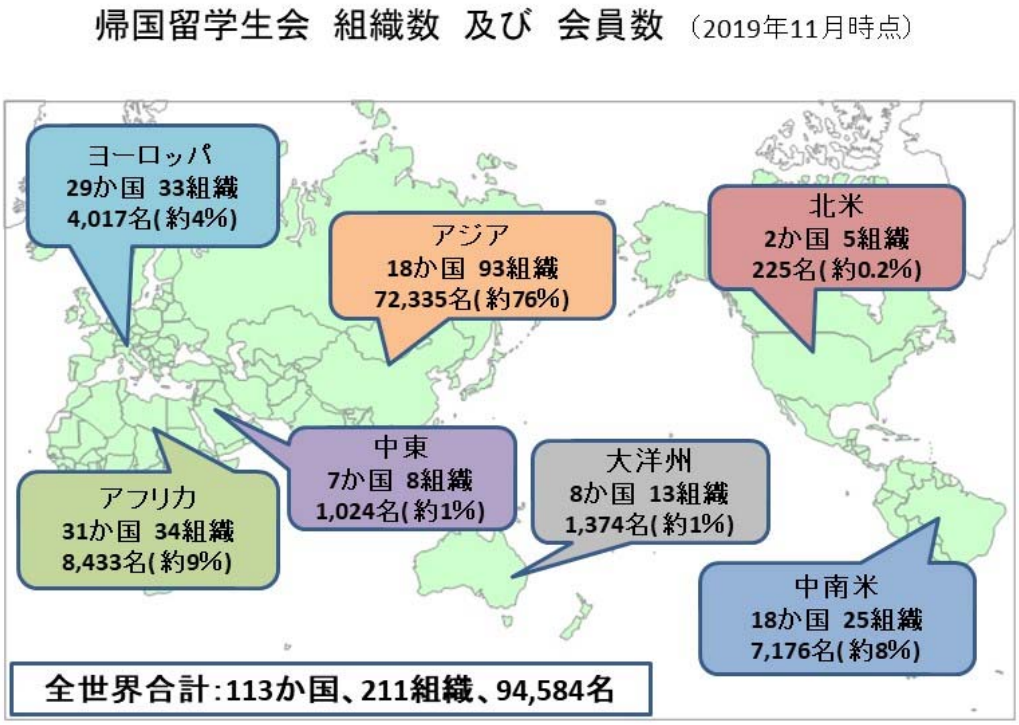
現在、全世界で組織されている帰国留学生会は 113 か国・211 団体、会員数は 94,584 名に上ります（2019 年 11 月現在、在外公館等を通じて外務省で把握している数）。下図のとおり、日本との留学生交流の歴史が古く、日本への留学生数の多いアジアに最も多くの帰国留学生会が設立されています。その一方で、米国においては、帰国留学生が帰国後に出発地に留まらず全米各地に移動してしまうケースが多いといった理由から、帰国留学生会がほとんど組織されておらず（現在シアトルに１組織のみ）、どのようなフォローアップ体制を整えるかが課題となっています。

これらの会は、帰国留学生の努力によって設立されたもので、それぞれの母国と日本の交流の窓口

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

として大きな役割を果たしており、日本にとっても非常に大切な存在です。外務省は在外公館などを通じて活動の支援等を行い、日本留学の魅力発信のための広報・情報提供、日本語・日本文化普及のための活動等に協力してもらっています。

②帰国留学生会の歴史



歴史を振り返ると、最も古い帰国留学生会組織が 1951 年にタイで設立されて以降、1970 年代までに主に東南アジア及び東アジア、1980 年代には南アジア、1990 年代には欧州、中南米、中東及びアフリカの各国で帰国留学生会が設立されており、時代と共に帰国留学生会が全世界に広がってきていることが分かります。

1951 年	タイにおいて設立
1963 年	インドネシアで設立
1970 年代	シンガポール、 フィリピン、 マレーシア 等東南アジア地域で設立
1973 年	韓国で設立
1974 年	香港で設立
1986 年	インドで設立

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

1990 年前後～　アジア以外の地域（欧州、中南米、中東、アフリカ諸国）にも設立

③ASCOJA とアスジャ・インターナショナル

ひと口に帰国留学生会と言っても、それぞれに各留学生会の設立の事情やその国・地域の事情を反映した特色があります。その中でも、最もユニークな組織の一つはアセアン元日本留学生評議会(ASEAN Council of Japan Alumni、ASCOJA（アスコジャ）、以下、「ASCOJA」）ではないでしょうか。ASCOJA は 1974 年に当時大蔵大臣だった福田赳夫元総理の呼びかけで開始された「東南アジア元日本留学者の集い」で交流を深めた方々が中心となり、ASEAN 各国の元日本留学者同士の交流を目的として、1977 年６月に設立されました。現在、ASEAN10 か国の帰国留学生会が加盟しており、会員総数は３万９千人を超え、全世界の帰国留学生会員数の約 40%を占めます。他の地域の帰国留学生会同様、日本文化や日本語などの普及活動を在外公館等と連携しながら実施することに加え、毎年秋（2015 年以前は隔年）に各国持ち回りで ASCOJA 総会を開催しています。総会には、開催国の政府要人、ASCOJA に加盟する帰国留学生会員を始めとして、多くの帰国留学生、現地の学生等が出席し、毎年異なるテーマの下、日本と ASEAN の更なる友好・協力関係の強化等につき議論しています。2019 年 10 月初旬にはラオスの首都ビエンチャンにおいて、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会をテーマとして第 25 回総会が開催されました。同総会にはセンドゥアン・ラオス教育スポーツ大臣、若宮健嗣外務副大臣を始めとして 250 名が出席し、2020 年東京大会において ASEAN と日本が共に成功するための活発な議論が行われました。

2000 年には ASCOJA の日本側カウンターパートとして日本国内にアスジャ・インターナショナル（以下、「アスジャ」）が設立されました。アスジャは ASCOJA から推薦され、選考を通過した国費留学生を継続的に受入れ、日本と ASEAN の架け橋となる将来のリーダーを育成するためのプログラムを実施すると共に、毎年 ASEAN の３～４か国において、日本との関係にテーマを絞ったシンポジウムを開催し、ASCOJA を中心とする ASEAN の帰国留学生会ネットワークの維持・発展に貢献しています。

④帰国留学生が少ない地域

帰国留学生の人数が少ない国や地域では、JICA(国際協力機構)や AOTS(海外産業人材育成協会)などのプログラムによって日本で研修した人たちの同窓会組織に帰国留学生が加わっています。日本での留学・研修などの経験を生かして母国で活動しているという点では、その他の地域の帰国留学生会と同じです。

（３）帰国留学生会の活動内容

帰国留学生会は主に以下の活動を行っています。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

① 帰国留学生のネットワークの形成

帰国留学生会の最も基本的な活動は、帰国留学生相互の親睦・懇親を深めることです。さまざまな情報を交換し、人脈の形成を図るための会合の開催や、会報やニュースレターの発行といった活動を行っています。

② これから日本へ留学する人や留学希望者に対する支援

会員自身の留学経験を生かして、日本への留学に関する情報の提供や、留学希望者・予定者へ実際の日本での日常生活や学生生活を送る上でのアドバイスなどを行っています。具体的には、日本留学説明会の開催、国費留学生採用者への渡日前オリエンテーションの実施などの協力を行っています。

③ 日本紹介のための活動

各帰国留学生会は日本紹介のためのさまざまな活動を行っています。以下のような活動は、帰国留学生の母国の人たちに日本をもっとよく知ってもらうために、そして帰国留学生の母国と日本との友好親善に重要な役割を果たしています。

ⅰ）日本語教育、日本語の普及に関する事業

ⅱ）生け花、茶道など日本の文化の紹介や普及に関する事業

ⅲ）日本映画の上映会

ⅳ）帰国留学生の専門的知識や経験を生かした講演会やセミナーの開催

④ 留学終了後の就職や処遇

現在、日本で勉強中の留学生やこれから日本に留学したいと考えている方にとって最大の関心事は、やはり留学終了後の就職や処遇にあると思います。日本の留学経験がどの程度有効に活用できるのかということは大きな課題です。そのような中、帰国留学生会が上記のようなセミナーを開催して、帰国留学生自らの経験を共有してくれることは今後の留学生にとって大きな励みになるものです。

具体的な例として、在ミュンヘン日本国総領事館が毎年、ミュンヘン工科大学、ミュンヘン大学日本センターとそれぞれ共催している留学生懇談会が挙げられます。懇談会には卒業後に日本に携わる仕事に就くことを希望し、ドイツにおける日系企業や日本で働くことを希望する学生（帰国留学生含む）が参加します。そして、日系企業に勤める卒業生や現地の日系企業から、就職に際しての具体的なアドバイスを得たり、意見交換をすることで、インターンや就職につなげています。実はミュンヘンには帰国留学生会は組織されていないのですが、日本の在外公館が間に入ることで、日本企業への就職を希望する学生及び現地の優秀な学生の採用を希望する日系企業双方に有益な機会を提供している好例であると考えられます。外務省は、今後もこのような例が増えていくよう、在外公館の活動を

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

サポートしていきます。

３．おわりに

国や地域によって帰国留学生会の設立の経緯やその態様は様々ですが、すべての帰国留学生会に共通することは、帰国留学生の母国社会での地位向上や対日理解の促進などを中心に活動を行っているということです。

私たちは、帰国留学生の方々に、日本で勉強したことを自分の夢の実現のために大いに役立ててもらいたい、帰国留学生の母国と日本とが、今以上にお互いを理解し友好親善を深めるための掛け橋になってもらいたいと願い、在外公館を通じた国費留学生の選考、留学終了後のフォローアップ等を行っています。

留学生交流に携われている皆様におかれては､留学生が帰国後もこのような活動に積極的に参加し、日本とのつながりを維持することで、人と人との交流が一層深まるよう、帰国留学生会への関心を高めてもらうよう呼びかけていただけますと幸いです。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.